

礼拝アウトライン 2月23日

1部：主人を待つしもべ
(ルカ 12:34-40)

信者の人生は、キリストにより救われた
幸いな者という揺るぎないアイデンティ
ティーをもって、再び来られるキリス
トを迎える準備として今日を生きるも
なので、まるで主人を待つしもべのよう
に生きることになる。主人を待つとは？

1. 常に主であるキリストに心が向けられ

- 1) 世界の基が据えられる前からのキリスト
- 2) 受肉のキリスト
- 3) 復活なされたキリスト
- 4) 再臨の主キリスト
- 5) 裁きの主キリスト

2. キリストの願いに沿って人生を

- 1) 捨てるべきものを捨てて
 - ①ガラテヤ 2:20
 - ②サタンの 12 やぐら
- 2) 取り戻すべきものを取り戻して
 - ①御座のやぐらと旅程
 - ②福音と御言葉と伝道
- 3) 建てるべきものを建てて
 - ①神様の目標 ②御座の道しるべ

パウロはピリピ 3:8 でなぜちりあくたと言ったのか。

肉的願い、葛藤、不安、心配、憎しみ、心の傷などを捨てよう！

私の中に御座のやぐらが建つよう祈り、3庭が作られて光の神殿を回復しよう！それで、出会いと家庭、業、地域に暗闇が碎かれる癒される答えをもって、47、一千、237,5000 の絶対ヤグラを建てる聖書的伝道運動の主人公になろう！

2部：肉に酔いしれて(創世記 6:1-8)

信者にとって一番悲しいことは、幸せの基準が未信者と変わらないまま、光の神殿と無縁な人生を送ること、それは信者の内側に崩れるべきものがあるという裏返しでもある。

1. 肉のものを人生の基準に

- 1) 肉的美しさ
- 2) 肉的豊かさ
- 3) 肉的平安
- 4) 幸せの基準に
- 5) サタンの策略-真の問題と幸せが見

られないように

2. サタンの手助け

- 1) 宗教

- 2) 偶像
- 3) シャーマニズム
- 4) 肉的満足
- 5) ネフィリム-サタンの奴隷

- 2) 人間の真の問題を
- 3) 人間の真の幸せを
- 4) 箱舟へと

3. 神様の救い

- 1) わざわいを通して

幸せの基準は、キリスト(マタイ 5:3)、御座の祝福(エペソ 1:3)にあり、神様が主人(詩篇 23:1)になることである。

1部-ルカ 12:34-40 主人を待つしもべ

なるほど/

主人が戻って来るのを待つしもべのように、信者はキリストが来られるのを待つ信仰になれば、常にキリストに心が向けられ、キリストの願いに沿って人生を生きることになる。

ならば/

自分の中にキリストに向けられないようにするものを砕いて、聖書的伝道運動の答えに預かれるように祈ろう！

2部-創世記 6:1-8 肉に酔いしれて

なるほど/

サタンに騙されて、肉的なものを幸せの基準にして、結局ネフィリムになりサタンの奴隷になる人間に、神様はわざわざいを通してでも真の問題と真の幸せを悟らせ、方舟へと導かれる。

ならば/

真の幸せの基準をキリストと御座の祝福、神様が主人となることに修正して、ネフィリムにやられている人々を助ける方舟を作ろう！